

高校生と AI－「考える葦」はどこへ行く

渡辺美代子（NPO 法人ウッドデッキ）

先月、福島で高校生対象のワークショップに参加しました。8 年前から福島の復興を念頭に開催されてきたこの会議に毎年参加していますが、当初は女子会として開催、昨年からは男女対象に変更されました。参加者 72 名のうち女子が 7 割、男子が 3 割とあまり見ない光景の対話会でしたが、とても活発な高校生の姿を見ることができました。最初は 8 名のグループに分かれて自分たちの興味あるテーマを議論し、その後話し合ったことを発表しました。グループ発表の半数以上は AI に関する内容で、今後自分たちが AI とどう付き合っていくのか、具体的には AI を自分たちの生活や学習にどう活用するのか、その時の問題点などを語ってくれました。当たり前かもしれませんが、改めて、今の高校生は AI に興味を持ち、既に親しい関係にあることを実感しました。

対話会には福島に住む生徒が 6 割と最も多かったのですが、大阪、宮城、福井、群馬、茨木、東京からも、そして英国からも生徒が参加しました。高校生の発言は出身地によるところが大きく、何と言っても大阪の生徒が英国の生徒を含め皆に積極的に話しかけ、それに刺激されて東北の生徒たちも英語で英国の生徒たちと会話していました。このような刺激はとても大切、いろいろな人が一同に集まって自ら変化を起こす若い姿に逞しさを見ることができました。

グループ討議では日本の生徒たちと英国の生徒たちが一緒に議論しましたが、当然直接の会話だけで意思疎通ができるわけではなく、「ポケトーク」というリアルタイム通訳機を使って会話しました。このポケトーク、数年前から使っているのですが、年ごとに進化し、今では十分議論に使えるほどになりました。デジタル技術の進展をここでも見ることができました。こんなことが高校生にとっては当たり前です。

高校生のグループ討議の発表はとても分かりやすく、高校生らしい考えを示してくれました。以前に比べて自信をもって発表していて、それは素晴らしいことなのですが、少し気になったのは、どのグループも似たような発表で、失礼な言い方をすると画一化されていました。また、議論に深みが欠け、結論を急ぐ傾向が見られました。これも時代なのでしょう。

世代を問わず皆がスマホを片手に、わからないことがあるとすぐにスマホで AI に聞く、それなりの答えを得て納得し、それ以上深く考えることを止めてしまう。そんな毎日には高校生に限らず私の生活でもあり、きっと多くの人の生活になっていて、仕事でも同じでしょう。それは効率的で「もやもやする時間」がなくなる、でも、本当にそれでよいのだろうか、考えることを止めてしまう人間はいったいどうなってしまうのだろうか。「人間は考える葦である」と言ったパスカルの言葉は通用しなくなってしまうのでしょうか。

この問題を多くの人と一緒に考えてみたい、そんな思いから今年 10 月 10 日には京都で

「常時接続の世界で孤独を問う。ースマホ時代の哲学ー」をテーマにシンポジウムを開催します。総合地球環境学研究所上廣環境日本学センターとウッドデッキが共に、高校生と中学生にも参加いただけるよう企画しています。これを読んでくださっている皆さまにもぜひご参加いただきますようお願いいたします。以下から参加登録をしていただければ幸いです。

シンポジウム参加登録

<https://forms.gle/Cp8H6SZNasWzq46x6>



高校生ワークショップ@福島の様子